

北九州市議会議員 大久保むが 市政レポート

MUGA TIMES

No.
19

2013年
秋 号

【発行日】2013年10月25日
【発行人・編集人】大久保むが



平成24年度決算の概要

歳入決算 約5268億2700万円

歳出決算 約5237億8500万円

<市税収入はマイナス>

市税収入は全体で1555億2100万円となりました。これは平成23年度比でマイナス2.7%です。

個人市民税や法人市民税はそれぞれ増加したのに対し、固定資産税がマイナス6.5%(48億1400万円)と大きく減少しました。

さらに環境未来税もマイナス42.6%(5億7500万円)となりました。



●臨時財政対策債を除く市債発行額は、対前年度比55億円増

平成24年に発行した臨時財政対策債を除く市債発行額は392億6100万円で、対前年度比でプラス16.3%(54億9500万円)増加しました。

また、地方交付税の振り替えである臨時財政対策債の発行額は303億1500万円で、平成24年の市債発行の総額は695億7600万円となり歳入全体に占める市債の割合は13.2%となりました。

扶助費及び福祉・医療関係の繰出金・・・高齢化の進展等に伴い6年連続増加

扶助費及び福祉・医療関係の繰出金は1586億5800万円で、対前年度比プラス2.5%(38億4300万円)の増加となりました。

●病院会計が黒字に

病院会計は経営改善の取り組みによる料金収入の増加や、減価償却の減、経費の節減などにより、損益収支は平成6年以来18年ぶりに黒字に転換し、単年度実質収支は13億9000万円となりました。





一般質問

離島への漂着ごみについて

Q 本市の総延長約210kmに及ぶ長い海岸線には国内、また海外から、多くの漂着ごみが流れ着き、その処理は近年大きな課題となっています。

小倉北区の馬島において「水辺とふれあいプロジェクト 海岸周辺清掃」事業として、市民ボランティアを募って清掃活動を今年度4回に亘って実施しました。



馬島は、人口40名、小倉北区浅野から渡船で20分程度で島に行く事ができる、福岡県内にある人が住む離島の中で最も都心部に近く、かつ最も小さな島です。馬島の海岸線は、港となっている一部分を除き、砂浜や岩場の自然の海浜で、そのほとんどが、漂着ゴミであふれています。漂着ゴミを放置しておくことは、景観上も然ることながら、異臭や怪我など直接的な人体への危険性、環境上の悪影響などの様々なリスクが考えられます。

離島および本土に押し寄せる漂着ゴミをどのように認識されているのかお伺い致します。

また、普段私たちが生活することによって排出される一般ゴミは、それぞれ分別され、有料の専用のゴミ袋に入れられ、家の近くの収集場所へもっていけば、収集車によって回収されます。その他、地域でボランティア活動、清掃活動で拾い集めたゴミや、自治会などで行われた公園等の草刈りで発生した草や木などは、緑色の通称「ボランティア袋」と呼ばれる袋に入れ、一般ゴミと同じように環境局から収集に来てくれます。

一方、馬島や藍島などで発生した一般家庭ごみは、本土と同様にそれぞれ有料の専用のゴミ袋に入れられて回収され、漁船で本土まで運搬しています。この運搬に関しては、環境局から「収集運搬料」の名目で町内に委託されています。

6月に2回実施した清掃活動で発生した約1トンの漂着ゴミの運搬では、発生する運搬費用を漁協が負担しました。島においてボランティア活動を行い回収したゴミを、本土に運ぶための仕組みが現在のところありません。

馬島における市民ボランティアのこうした取り組みを行政が後押しすることは、行政と市民団体との協働の定義に当てはまるものであり、県内の他地域に先駆けてモデルとなるような仕組み作りが必要であると考えますがご見解を伺います。

A 離島においては、これまで緊急雇用創出事業を活用して、馬島・藍島の海岸漂着物を回収・処理しておりまして、昨年度は11.4トンの漂着ゴミを除去致しました。今年度から馬島では、地元の自治会、NPO法人と協議を行ないまして、8月以降の清掃活動に伴う漂着ゴミは本土までの運搬費の支援を始めたところであります。

漂着ゴミの回収・処理には発生源が島外であるためその抑制が難しく、重機の利用も難しいため多くの人員や費用が必要だと言う課題があります。このため本市は国や県に対し、県境を越えた対策、ゴミ処理について特段の財政支援措置を講じることなどを要望しています。さらに、離島における市民ボランティアによる海岸清掃活動への支援を今後とも推進し、行政・市民が相互に協力し合って海岸美化・環境保全が図れるよう取り組んで参ります。

障がい者の雇用と理解について

Q 昨年的一般質問で、私は障害者雇用の拡大に関しての質問をしました。平成25年4月から障害者雇用促進法の改正され、障害者の法定雇用率が引き上げられることになりました。雇用の確保は、障害のある方が社会に出て活躍するために欠かせません。

本市では例年、障害者を対象とする採用選考を行なっています。受験される方の障害の種類は様々あり、雇用する側の市当局と雇用される側の方との仕事のマッチングの必要性を感じます。

私は以前、障害がある方の特技を活かせる業務を企業内で抽出し、仕事を分担して行うという提案を行いました。業務切り出しや、業務切り分けと言われるものです。封入、テープ起こし、文書の集配、廃文書のシュレッダーなど、切り出せる仕事を探せば山ほどあると思われます。市役所内でワークステーションを作り、仕事を集約することで、障害のある方が効率的に仕事を出来る環境を整備することが望ましいと考えます。

本市における障害者を対象とする採用選考の際には、まず業務切り出しを行い、そのうえで採用を行うべきと考えます。業務切り出しを行う事で、就労が難しい知的障害の方や、視覚障害の方々にも雇用の可能性が大きく広がるこの業務切り出しについて取り組むべきと考えますが、ご見解を伺います。

A 議員ご提案の、業務切り出しを行った上での採用につきましては、幅広く事務に従事する行政職の業務として適当かどうか、業務を限定した場合、異動など、人事管理上の課題が生じないか、といった点も考えられることから、今後法令や他都市の状況も含め研究してみたいと考えています。

障害がある方の就労を促進することは、障害者の社会参加や経済的自立を実現する上で大変重要なものと認識しております。今後とも本市がその模範となるよう努めて参ります。

身の丈のまちづくりについて

Q 国立社会保障人口問題研究所が予測する本市の人口は、2030年には86万6164人、2040年には78万4162人と、大幅な減少が見込まれます。

私は、今現在見えている未来に対してしっかりと対処する政策を持つことが、今を生きる私たちに課せられた使命であろうと思います。つまり、人口減少に歯止めをかける努力は当然必要ですが、人口減少社会に対応できる社会やまちを作ることは、喫緊の重要課題であると思っています。



今現実起こっている、そしてこれから確実に人口80万人を切る時代が訪れようとしているなかで、市は今後どのような方針を持ってまちづくりを行おうとしているのか、見解を伺います。

右肩上がりの経済と人口の増加によって、都市は郊外へと広がってきました。今なお郊外には大規模な住宅地の開発がおこなわれ、それに付随する道路、電気、上下水道、ガスや電話、道路照明や教育施設に市民センターなどの公共施設など、数々の社会インフラが必要となります。本市の人口はすでに減少局面に入ってる中で郊外への大規模な住宅地の造成は何をもたらすのでしょうか。

そして今後20年から30年が経過し、高齢化と人口減少が進み、その地域は果たしてどのような場所になっているのか。整備された多くの社会インフラは誰が維持するのか。今すでに見通せる未来の姿から、どのぐらいの規模の街になることがふさわしいのか、「身の丈の街のすがた」を真剣に考えなければなりません。

市が標榜しているコンパクトシティの中心地と周辺地域の在り方として、どのような構想をもっているのでしょうか。見解を伺います。

A 本市として人口の減少傾向に何とか歯止めをかけたいと考えています。そのためには雇用機会を創出していくことが最優先だと考えています。

3年間で8000人の雇用創出という数値目標を掲げています。さらにより多くの方々にこの街に住んでもらうためには、市としての魅力を高めていく事が必要になります。魅力的な都心づくりなどいろいろな方法で交流人口を高めて、都市の活力の維持向上を図っていく事も重要と考えております。

一方で、超高齢・人口減少社会を踏まえまして、市民の暮らしに密着したまちづくりを進めていく必要があります。また、街なか居住の推進を中長期的に促進し、拡散的な公共投資を防ぎ、経営資源の効率化を図る事など、時代に応じた市民が暮らしやすいまちづくりをすすめて参りたいと考えています。

香川県高松市丸亀商店街を訪問

丸亀商店街へは、平成23年に1度訪問し、中心市街地が再生されてゆく様を目の当たりにしたところです。このまちで行われている中心地の再生の取り組みを深めるべく2度目の訪問を行いました。

広がりすぎたまちをいかに正しく縮めるか。高松市では市税収入は全体の7割を中心市街地から得ているとのこと。

つまりこの中心地の衰退は、市の経営に直接的に重大な影響を及ぼすことから、中心地の衰退は都市の死活問題であるとされています。



＜商店街自らが自問自答＞

丸亀商店街では、この中心地を再生する際に、さまざまな自問自答を行ったそうです。

- 中心地の商業が衰退している原因はどこにあるのか？
- お客さんが欲しいものを売っているのか？
- 役所が何もしないからだめなのか？駐車場がないからだめなのか？
- 責任を他に転嫁していないのか？
- 中心地の活性化を怠ったのは自分たち自身なのではないか？
- 努力を怠った人々たちをなぜ公費で支えなければならないのか？

こうした自問自答や意見交換を繰り返し、中心地に商業を構える店主自らの手で中心地の再生を手掛け出したそうです。

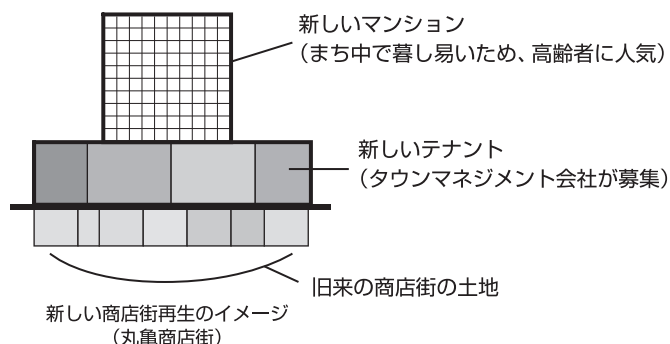
＜中心地再生へのカギは土地問題の解決から＞

都市再生の問題は、土地問題を解決する事だという観点からこの土地問題を、まず最初の解決に向けて取り組んだそうです。

これは以前のレポートでもご紹介しましたが、丸亀商店街は土地の所有権と利用権の分離を図ることで、この問題を解決しようとした。

所有権はそのまま商店街の土地を60年間借り上げ、商店街を運営するタウンマネジメント会社が一括で管理・運営するというものです。

この土地を活用して、先ほどのタウンマネジメント会社がかつその土地で商売を行っていた商店に対して廃業支援を行います。その後新しいテナントを誘致するために土地をまとめてテナントビルを建設します。同時に上層階には住宅を整備することで日常商店街で買い物をする顧客を確保するという考え方です。



＜新しい商店街の在り方を＞

中心市街地は交通の便がよく、移動に不自由がない場所です。このマネジメント会社は、こうした立地の良さを活かして、中心地である商店街にマンションを建設し、約400世帯が入居できるようにしました。

さらに「車を維持するためには、例えば車のローン、駐車場代、車検、ガソリン代、自動車保険・・・多い人でひと月に5〜7万円程度が必要とされます。この車につき込む費用がなくなり、駅前での利便性の高い公共交通を活用する事で、どれほど豊かな生活ができるでしょうか。そういう意味で中心市街地に住むだけの優位性は大きなものがあります。」と丸亀商店街の古川理事長。

こうした考えで取り組みを行い、従来の中心地にある商店街とは見違えるほどの変貌を遂げました。中心地は外から人を呼び込むという発想から、顧客となる住人を抱え込むことで生き残りを図り、見事に再生しているのです。

まだまだ丸亀方式の都心再生について研究し、本市の中心市街地の在り方について活用できるものはどんどん取り入れるよう提言していきたいと思います。

7・8・9月活動記録

7 月

- 1日 環境建設委員会 協働事業プレゼン(福岡県庁)
- 4日 参議院議員選挙 告示
- 5日 大久保むが応援団 工場見学バスハイク
- 7日 第43回北九州ポンプ操法大会 北九州青年会議所 北九州ドリームサミット
- 11日 紫川さくら通り命名式典
- 12日 市議会会派団会議
- 15日 陣原まつり 夏越祭
- 17日 環境建設委員会
- 18日 ムーブフェスタ2013 参議院議員大島九州男総決起集会
- 19日 黒崎祇園山笠前夜祭
- 20日 洞南4地区 山笠競演会
- 22日 下関市議会との懇親会
- 23日 民主党政令市議会 総会
- 24日 民主党政令市議会 視察 図書館条例勉強会
- 26日 市議会会派団会議 中井校区サマーナイトフェスティバル
- 28日 第4回 民主党青年政治塾「青政塾」

8 月

- 1日 市議会対抗野球大会(熊本)
- 3日 ひまわり絵画展
- 4日 わっしょい百万夏まつり
- 5日 党総支部常任幹事会
- 6日 党県連青年国民運動委員会 会議
- 9日 市議会会派団会議 新スタジアムに関するタウンミーティング(市民対話集会)
- 10日 NPO法人 キッズワークキャンプ
- 12日 NPO法人 キッズワークキャンプ 春日台盆踊り
- 17日 浅川学園台夏祭り 陣原盆踊り
- 18日 馬島清掃団 見送り トロッコvsチャレンジャー
- 19日 視察 神戸 いのししへの餌やり禁止条例 高松 丸亀町商店街視察 岡山 県立図書館雑誌スポンサー事業
- 21日 環境建設委員会
- 23日 会派団会議 図書館条例検討会議
- 24日 党総支部常任幹事会
- 27日 学生×議員交流会とBBQ
- 28日 国道3号バイパス建設促進期成会
- 30日 大久保むが応援団市政報告会
- 31日 筑豊電鉄 ビール電車

9 月

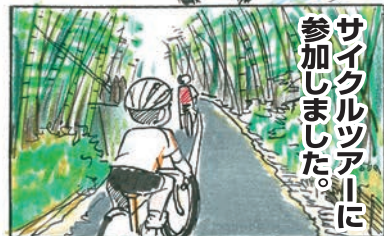
- 2〜4日 9月定例会 勉強会
- 8日 第5回 民主党青年政治塾「青政塾」
- 10日 北九州市議会9月定例会開会
- 11日 会派勉強会 質問読み合わせ
- 12日 党県連 青年国民運動委員会
- 14日 ホームレス支援機構 抱擁館開所式 「白象くんがきた」講演観賞 党地方議員団会議
- 15日 敬老会
- 17日 市議会本会議
- 18日 市議会本会議 一般質問
- 19日 市議会本会議
- 20日 市議会本会議 決算特別委員会
- 21日 党総支部常任幹事会 高塔山JAMフェスティバル手伝い 敬老会
- 22日 高塔山JAMフェスティバル手伝い
- 23日 高塔山JAMフェスティバル手伝い
- 24〜27日 決算特別委員会

キタQに

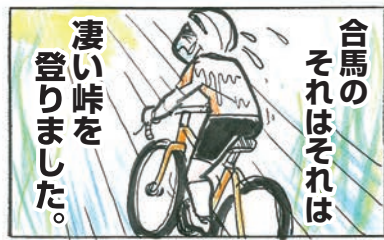
我夢中!!

No.19

サイクルツアーの巻



サイクルツアーに参加しました。



凄い峠を登りました。

合馬のそれはそれは



なんでも諦めずに頑張ろうと思いました。

我ながら達成感!



ギクッ

政治の道はすくっと登り坂だけれど、その見えない

応援団活動支援のお願い

皆様へ

大久保むが応援団では、大久保むがの活動支援のため、応援会費(個人寄付)のご協力をお願い致しております。

ご協力を賜れる方は、下記お振込口座まで、お手続きくだされば幸いです。

今後とも、ご支援・ご協力よろしくお願い申し上げます。

活動支援会費(個人寄付) 会費: 1口 1,000円~

福岡ひびき信用金庫

口座番号: 1202105

口座名義: 大久保むが応援団

※政治資金規正法により政治家個人は企業・団体からカンパ(寄付)を受けることができません。ご協力頂ける場合は「個人としての寄付」をお願いします。

※1年間1万円をこえる金額につきましては所定の手続きにより、確定申告の際に所得控除を受ける事ができます。

視察報告

▶ 神戸市 イノシシへの餌やり禁止条例

意外なことですが、神戸市では市内に出没するイノシシが多く、その対応が大きな課題となっているそうです。市内にイノシシが出没することは、野良犬、野良猫同様に日常的な光景とも言われており、買い物袋を狙って人を襲う事もあるそうです。

神戸市ではこうしたイノシシへの餌やり行為を条例で禁止することで一定程度の啓発効果があったとの事です。

さて、本市でもイノシシ、猿など野生動物が出没する地域があります。山から餌を求めて降りてくる野生動物に、可愛いからと餌を与え続けると、そこから野生動物の行動範囲が広がり、さらに農作物などへ被害を及ぼしてしまいます。

野良猫や野良犬への餌やり行為、きちんと管理されていないごみ集積所などは、間接的に餌やり行為とされるため、包括的な餌やり行為に対する啓発や条例の制定の必要性を検証していきたいと考えています。



▶ 岡山県立図書館 雑誌図書購入サポーター事業

岡山県立図書館が行っている、雑誌購入スポンサー事業の視察に行ってきました。図書館は雑誌を寄付してもらう代わりに、図書館に置かれるその雑誌にカバーを付け、その裏側に企業広告を掲載するという制度です。

これによりこの岡山県立図書館は年間400万円近い雑誌の購入費のうち、約26万円をこの制度によって充てているとの事でした。



市の予算からみたら決して大きな金額ではありませんが、こうした税以外からの収入を少しずつ確保することは財源確保の観点から非常に重要で、市が持っているさまざまな資源を活用することを今後も提案し続けていきたいと思います。

北九州市議会議員 大久保むがプロフィール

昭和63年校光小学校卒業。平成3年校光北中学校卒業。平成6年福岡県立北筑高等学校卒業。平成10年九州国際大学国際商学部卒業後、平成12年から元衆議院議員・北橋健治氏の秘書に。その後、さらなる政治の勉強をするため、平成18年北九州市立大学・法学研究科に入学、政策科学を学ぶ。勉学のかたわら、参議院議員・大久保勉氏の秘書を平成19年まで務める。平成20年3月、北九州市立大学・法学研究科を卒業。同時にヘルパー2級取得。平成21年北九州市議会議員に初当選、総務財政委員会に所属、民主党福岡県第9区総支部常任幹事、NPO法人「KID's work」理事。



大久保むが事務所

〒807-0831 北九州市八幡西区則松2-9-2 Tel 093-863-5530 Fax 093-863-5531
http://www.mugamuga.net/ E-mail yahatanisi@mugamuga.net